

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大原スポーツ医療保育福祉専門学校
設置者名	学校法人 大原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
教育・社会福祉 専門課程	保育福祉科	夜・通信	344 時数	240 時数	
	介護福祉科	夜・通信	2,074 時数	160 時数	
	医療福祉科 (2年制)	夜・通信	845 時数	160 時数	
	医療福祉科 (1年制)	夜・通信	300 時数	80 時数	
衛生専門課程	ビューティー科	夜・通信	720 時数	160 時数	
	美容科	夜・通信	1,380 時数	160 時数	
	製菓衛生科 (2年制)	夜・通信	570 時数	160 時数	
	製菓衛生科 (1年制)	夜・通信	570 時数	80 時数	
文化・教養専門課程	スポーツ産業科	夜・通信	1,535 時数	160 時数	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 URL: <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/">https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大原スポーツ医療保育福祉専門学校
設置者名	学校法人 大原学園

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表

URL: [https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer\\_list.pdf](https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/officer_list.pdf)

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	司法書士事務所 所長	2019.4.1～ 2023.3.31	法人運営における 法務的な検証、管理
非常勤	Web デザイン・システム 開発・印刷関連企業 代表	2019.4.1～ 2023.3.31	学生募集、教材開発 への助言
非常勤	前：不動産関連企業 代表	2019.4.1～ 2023.3.31	校舎等学習環境の 整備への助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大原スポーツ医療保育福祉専門学校
設置者名	学校法人 大原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>																						
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。 毎年、上記の手続きを経て、授業計画(シラバス)を改善検討し、3月に公表する。</p>																						
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/">https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/</a></p>																					
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																						
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>1. 定期試験等</p> <p>(1) 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>(2) 学業成績は、上記(1)のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>2. 学業成績の判定</p> <p>学業成績の判定および評価、成績証明書の表記は、下記の表のとおり。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定</th> <th>評価点</th> <th>成績評価</th> <th>成績証明表記</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>100点～90点</td> <td>秀</td> <td>秀</td> </tr> <tr> <td>89点～80点</td> <td>優</td> <td>優</td> </tr> <tr> <td>79点～70点</td> <td>良</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td>69点～60点</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>59点以下</td> <td>不可</td> <td>非表示</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 単位の授与</p> <p>授業科目を履修し、各科目の成績を判定のうえ、秀、優、良、可を取得したのものには所定の単位を与える。</p>		判定	評価点	成績評価	成績証明表記	合格	100点～90点	秀	秀	89点～80点	優	優	79点～70点	良	良	69点～60点	可	可	不合格	59点以下	不可	非表示
判定	評価点	成績評価	成績証明表記																			
合格	100点～90点	秀	秀																			
	89点～80点	優	優																			
	79点～70点	良	良																			
	69点～60点	可	可																			
不合格	59点以下	不可	非表示																			

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1. 成績評価における客観的指標として、GPA (Grade Point Average) を用いる。
2. 授業科目の成績は、下記の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、下記のとおりGP (Grade-Point) を与える。

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	100点～90点	
優	3	89点～80点	
良	2	79点～70点	
可	1	69点～60点	
不可	0	59点以下	
認定	—	—	対象外

3. GPA算出方法

$$GPA = \frac{\text{(科目の単位数} \times \text{当該科目で付与されたGP) の合計}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$$

※小数点以下第3位四捨五入

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

ホームページにて公表  
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1. 進級

進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。

2. 卒業の認定

(1) 各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業判定委員会の審査に合格した者について校長が行う。

(2) 卒業の認定は最終学年の終わりに行う。

学科ごとに定める授業時間数及び単位数

学科	修業年限	授業時間数	単位数
保育福祉科	3年	2,604時間	116単位
介護福祉科	2年	2,074時間	68単位
医療福祉科	2年	1,700時間	62単位
医療福祉科	1年	800時間	30単位
ビューティー科	2年	1,700時間	62単位
美容科	2年	2,010時間	67単位
製菓衛生科	2年	1,700時間	62単位
製菓衛生科	1年	800時間	30単位
スポーツ産業科	2年	1,700時間	62単位

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

ホームページにて公表  
<https://www.o-hara.ac.jp/about/joho/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大原スポーツ医療保育福祉専門
設置者名	学校法人 大原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページで公表 <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/pdf/financial-overview.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

【保育福祉科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	保育福祉科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,604 単位時間 ／116 単位	1,052 単位時間 /57 単位	1,162 単位時間 /49 単位	480 単位時間 /13 単位	— 単位時間 /単位	— 単位時間 /単位
			2,694 単位時間／119 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		24 人	0 人	3 人	9 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。 毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。 2. 学業成績は上記1のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。 3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。

卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。 2. 卒業の認定 (1) 各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。 (2) 卒業の認定は最終学年の終わりに行う。
学修支援等
(概要) 入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 ( - %)	5人 (100%)	0人 ( - %)
(主な就職、業界等) 保育園 認定こども園 他			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、面接トレーニング			
(主な学修成果(資格・検定等)) 保育士 幼稚園教諭免許 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	1人	4.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

【介護福祉科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
教育・社会福祉		専門課程	介護福祉科	○	—	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2,074 単位時間 ／68 単位	1,188 単位時間 /40 単位	850 単位時間 /31 単位	456 単位時間 /11 単位	単位時間 /単位
			2,494 単位時間／82 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
70 人		11 人	1 人	3 人	4 人	7 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定</p> <p>（1）各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。</p> <p>（2）卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 ( - %)	8人 (100%)	0人 ( - %)
(主な就職、業界等) 介護施設 等			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、 面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 介護福祉士 レクレーションインストラクター 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	3人	16.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際 に担任・管理職による随時面談を実施する。		



【医療福祉科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	法律行政科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間 ／62 単位	2,895 単位時間 ／64 単位	6,505 単位時間 ／93 単位	540 単位時間 ／18 単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			9,940 単位時間／175 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		39 人	0 人	2 人	1 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定</p> <p>（1）各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。</p> <p>（2）卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人 ( - %)	14人 (93.3%)	1人 (6.7%)
(主な就職、業界等) 医療機関 等			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 診療報酬請求事務能力検定 医療請求事務検定 医療秘書実務検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	3人	8.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気療養、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

【医療福祉科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	医療福祉科（1年制）	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 ／30 単位	630 単位時間 /21 単位	480 単位時間 /16 単位	120 単位時間 /4 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,230 単位時間／41 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		0人	0人	1人	2人	3人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年2回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記1のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定 （1）各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。 （2）卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （ - %）	0人 （ - %）	0人 （ - %）	0人 （ - %）
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、面接トレーニング			
（主な学修成果（資格・検定等）） 診療報酬請求事務能力検定 医療請求事務検定 他			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 年度途中で2年制学科へ転科		
（中退防止・中退者支援のための取組） 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

【ビューティー科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	ビューティー科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,700 単位時間 ／62 単位	930 単位時間 ／33 単位	120 単位時間 ／4 単位	990 単位時間 ／33 単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2,040 単位時間／70 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		26 人	0 人	2 人	4 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3 月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定</p> <p>（1）各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。</p> <p>（2）卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 ( - %)	10人 (83.3%)	2人 (16.7%)
(主な就職、業界等) ブライダル業界 エステ業界 等			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) ブライダルコーディネーター技能検定 認定エステティシャン 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	5人	22.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気療養、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

【美容科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	美容科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,010 単位時間 ／67 単位	780 単位時間 /28 単位	1,230 単位時間 /41 単位	0 単位時間 /0 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,010 単位時間／67 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140 人		20 人	0 人	2 人	2 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。</li> <li>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</li> <li>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</li> </ol>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進級 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</li> <li>2. 卒業の認定 (1) 各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。 (2) 卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</li> </ol>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 ( - %)	5人 (100%)	0人 ( - %)
(主な就職、業界等) 美容室 等			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、 面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	2人	15.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		



【製菓衛生科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
衛生		専門課程	製菓衛生科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,700 単位時間 ／62 単位	990 単位時間 ／33 単位	30 単位時間 ／1 単位	900 単位時間 ／30 単位	単位時間 ／単位
			1,920 単位時間／64 単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
40 人		6 人	0 人	1 人	3 人	4 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定</p> <p>（1）各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。</p> <p>（2）卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 ( - %)	0人 ( - %)	1人 (100%)
(主な就職、業界等) 和菓子店 洋菓子店 等 令和3年度の1名は留学生のため技能実習生として就業			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、 面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 製菓衛生師 販売士 他			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

【製菓衛生科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	製菓衛生科 (1年制)	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間 ／30 単位	480 単位時間 /16 単位	30 単位時間 /1 単位	480 単位時間 /16 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			990 単位時間／33 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		4人	0人	1人	2人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画 (シラバス) を改善検討し、3 月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>1. 進級 進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定 (1) 各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。 (2) 卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 ( - %)	0人 ( - %)	1人 (100%)
(主な就職、業界等) 和菓子店 洋菓子店 等			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・E S作成のサポート、 面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 製菓衛生師受験資格 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

【スポーツ産業科】

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	スポーツ産業科	○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,700 単位時間 ／62 単位	3,075 単位時間 /107 単位	1,375 単位時間 /54 単位	2,310 単位時間 /77 単位	単位時間 /単位
			6,760 単位時間／238 単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人	39 人	0 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>年 2 回実施される教育課程編成会議において、現行授業科目の見直しや授業方法の改善、カリキュラム改善のためのご提案をいただき、校長を含めた教務責任者、現場教員により改善検討を行い決定する。</p> <p>毎年、上記の手続きを経て、授業計画（シラバス）を改善検討し、3月に公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内を行う効果測定、課題の提出等により評価する。</p> <p>2. 学業成績は上記 1 のほか、出席状況等の学習姿勢も考慮して評価する。</p> <p>3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の 5 種をもってこれを表し、秀は 90 点以上、優は 80 点以上、良は 70 点以上、可は 60 点以上、不可は 60 点未満とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級</p> <p>進級の認定は、各学科の各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行いかつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う。</p> <p>2. 卒業の認定</p> <p>（1）各課程・学科の修業年限以上在学して、学科ごとに定める授業時間数以上を履修し、かつ学科ごとに定める単位数以上を修得し、卒業審査に合格した者について校長が行う。</p> <p>（2）卒業の認定は最終学年の終わりに行う。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>入学時にオリエンテーションを実施し安心して学業に取り組めるよう配慮しており、入学後は専門的な学習内容も習熟度に応じて段階的に説明をするとともに、就職指導や生活指導・社会人教育等についても担任を中心に指導を行っている。</p> <p>また、日々の出席状況を確認し、欠席が多い学生には適宜担任および教務責任者が生活・学習指導を行うとともに、成績や出席状況は保護者にも定期報告し、学生・保護者・学校間の連携を密に、きめ細やかな指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 (100%)	0人 ( - %)	10人 (100%)	0人 ( - %)
(主な就職、業界等) フィットネスクラブ スポーツクラブ 介護施設 等			
(就職指導内容) 業界研究・企業研究のサポートおよび自己分析、履歴書・ES作成のサポート、面接トレーニング			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者 トレーニング指導者 他			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止の取組として、担任による定期面談及び学生から中退の兆しを感じ取った際に担任・管理職による随時面談を実施する。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
保育福祉科	100,000 円	680,000 円	350,000 円	
介護福祉科	100,000 円	680,000 円	400,000 円	
医療福祉科 (2 年制)	100,000 円	680,000 円	350,000 円	
医療福祉科 (1 年制)	100,000 円	680,000 円	350,000 円	
ビューティー科	100,000 円	680,000 円	450,000 円	
美容科	100,000 円	680,000 円	350,000 円	
製菓衛生科 (2 年制)	100,000 円	680,000 円	500,000 円	
製菓衛生科 (1 年制)	100,000 円	680,000 円	500,000 円	
スポーツ産業科	100,000 円	680,000 円	400,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>「試験による特待生制度」大原独自の特待生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除。</p> <p>「取得資格・クラブ活動による特待生制度」大原学園入学までに取得した資格やクラブ活動の成績によりランク認定を行い、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL: <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 当校の教育理念に基づき実践的な教育ができているか、教育を実現するために必要な環境が整っているかにつき、学校関係者評価委員会を設置して別途示す評価項目から評価する。委員より評価いただき、結果をホームページで公表する。課題の残る評価結果については、管理職主導で改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
社会福祉法人 ふじ乃里 ふじ保育園	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
株式会社 ケア・フレンズ	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
医療法人慈豊会	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
新田塚コミュニティ株式会社	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
キムラ株式会社	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
a. n. d. wedding	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
株式会社 セツコ	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
有限会社 シュトラウス金進堂	令和4年4月1日から 令和6年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) URL <a href="https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/">https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/</a>
--



(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	大原スポーツ医療保育福祉専門
設置者名	学校法人 大原学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		15人	14人	15人
内 訳	第Ⅰ区分	-人	-人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				15人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	6人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	6人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。